

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：64401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720403

研究課題名(和文) 現代エジプトのオルタナティブ・モダニティとしての空手実践に関する社会人類学的研究

研究課題名(英文) An Anthropological Inquiry into Egypt's Alternative Modernity: A Case Study from Karate Practitioners Communities

研究代表者

相島 葉月(Aishima, Hatsuki)

国立民族学博物館・民族社会研究部・外来研究員

研究者番号：40622171

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、空手道の稽古に取り組むエジプトの都市中流層の事例を手がかりに、中東におけるモダニティの系譜を探求することであった。近年、新自由主義経済の広がりにより、学歴や所得で中流層と下流層を差異化することがより困難になる中、「教養」の有無を指標とする新たな「階層観」が構築されつつある。この文脈において本研究は、エジプトのスポーツ実践に象徴された「身体化された教養」をめぐるポリティクスを、西洋的近代性に代わる、独自のモダニティを創出する試みとして考察した。

研究成果の概要(英文)：This study explored social class and body culture through the lens of karate practitioner communities in urban Egypt. I approached Muslim bodies as a contested arena in which a variety of ways to be “modern” is negotiated. Since karate became widely popular in the 1980s, it has established firm roots in youth culture to the extent that some Egyptian Muslims regard karate as a Sunna (an authentic tradition of the Prophet Muhammad). For instance, although karate and classical ballet require comparable body movements, the former is widely accepted among the educated middle classes as halal (lawful in Islam, morally safe and sound), a sport for young girls and boys to try out, while the latter is considered haram (unlawful). While halal and haram belong to the idioms of Islamic law, in order to trace the roots of karate’s popularity it is important to analyse such discourse in relation to the modernity and work ethics that Egyptian middle classes subscribe to.

研究分野：社会人類学

キーワード：エジプト 都市中流層 モダニティ 伝統 スポーツ 師弟関係 友情 教養

1. 研究開始当初の背景

本研究の出発点は、なぜエジプトの少年・少女にとって、空手道が「ハラール(イスラーム法的に合法、倫理的)」なお稽古事であるのに対し、同様な身体動作を行うクラシック・バレエが「ハラーム(イスラーム法的に違法、非倫理的)」なのかという問いにあった。ハラール/ハラームと言ったイスラーム法的な語彙を援用しているとはいえ、エジプトの空手人気を支える言説を分析するに際し、中流層的な倫理観になぞられたモダニティとの関係性において論じる必要がある。なぜなら、空手は「自己防衛に役立つがバレエは単なる楽しみでしかない」や「子供のしつけや集中力を高めるのに効果的」などに代表される、空手道に取り組む意義を「目的」と「効果」で説明し、享乐的な行為を批判する言説は、国際政治経済の周縁に置かれたエジプトの中流層的な倫理観を如実に反映しているからである。

近年モダニティ研究はChakrabarty(2000)に触発され、ヨーロッパ起源以外のより多元的なモダニティへのアプローチを模索している。本研究は、イスラーム的語彙を用いた空手に関する身体論を、イスラーム独自の身体観としてではなく、オルタナテヴ・モダニティ(代替近代性)への試論として分析する。

これまでのエジプトのモダニティに関する研究は、イスラームと大衆文化研究に二分されてきたため、ともに西洋的近代性とイスラーム/エジプト的伝統との「距離感」が争点となっていることが看過されてきた。大衆文化の研究においては、エジプトのモダニティは国家や社会の発展のあり方を模索する一方で、正しい系譜に則った真正な伝統の継承を希求するという特徴があることが論じられてきた(Armbrust 1996, Winegar 2006)。

イスラーム研究でも、多くの思想家がイスラーム的近代性を論じる際に、イスラームを自文化のルーツであると主張しつつ、知的遺産に根ざした現代主義を掲げていることが指摘されている(Salvatore 1997)。19世紀以降、エジプトの近代化政策は、西欧列強の帝国主義的な「まなざし」を意識しながら進められてきた(Mitchell 1988)。これに対し、日本発祥のスポーツである空手道への取り組みは、エジプト中流層が西洋中心的なモダニティを乗り越え、独自のモダニティを構築するための試みとしてとらえることはできないだろうか。

2. 研究の目的

本研究の目的は、エジプトを代表する大衆的スポーツである空手家コミ

ュニティ(競技者、指導者、父兄)の事例より、中流層的な倫理観とモダニティの関係性を再考することにある。中東におけるモダニティの系譜を探索するに際し、「社会階層」は最も有用な切り口の一つである。近年、新自由主義経済の広がりにより、学歴や所得で中流層と下流層を差異化することがより困難になる中、「教養」の有無を指標とする新たな「階層観」が構築されつつある。この文脈において本研究は、エジプトのスポーツ実践に象徴された「身体化された教養」をめぐるポリティクスを、西洋的近代性に代わる、独自のモダニティを創出する試みとして考察する。

3. 研究の方法

本研究は、国内外での臨地調査と文献資料のデータを組み合わせ進めた。毎年、春と冬休みを利用して2週間ほどカイロに滞在し、若者文化やスポーツに関する文献資料の収集と空手家コミュニティでも聞き取り調査を行った。具体的には次の5点である。

- 1) スポーツと社会階層の問題を論じている先行研究の概観
- 2) 国際交流基金の武道専門家派遣事業に関する資料収集、派遣された空手家への聞き取り調査
- 3) エジプトの空手教室や競技会での参与観察及び聞き取り調査。
- 4) エジプトでの空手実践に関する統計資料や映像資料の収集と分析。『アル=アフラム・リヤダ(スポーツ紙)』や『アル=シャバブ(青年)』などに加えて、公的機関が発行する青少年育成を目指したスポーツ事業に関する資料を収集した。
- 5) フェイスブックなどのSNSを利用してエジプト人空手家とのネットワークを構築し、彼らが掲載した写真や文章を分析した。

4. 研究成果

- 1) エジプトにおける空手道の普及と日本文化のグローバル化

エジプトに空手道が紹介された正確な年は不明だが、1967年の第三次中東戦争でイスラエルに大敗を期して以来、兵力の向上のため空手道が軍事訓練に取り込まれたという。カイロやアレキサンドリアなどの大都市だけでなく、ナイル・デルタ地域の地方都市でも空手教室が開かれ始めた。60歳代の空手家は1969年頃にカイロの上流階級向けの会員制スポーツクラブにて、日本大使館職員の手指導のもと空手道の稽古を取り組み始めたという。エジプトは20世紀初頭よりボク

シングやレスリングなどの格闘技が盛んであったとはいえ、空手道の知名度は低く、稽古は体育館や道場ではなく屋外で行われていた。

空手道が「大衆的スポーツ」として認識されるようになった背景には、中国拳法などの格闘シーンを取り入れた香港のアクション映画の流行が深く関わっていた。1971年にブルース・リー主演のカンフー映画『ビッグ・ボス』が大流行したのをきっかけに、自己防衛 (*al-difa' an al-nafs*) を目的としたスポーツとして空手人気が一気に高まったという。カンフー映画の流行により空手を試してみたいと思う子供や若者が増えたことで空手教室の需要が高まった。1980年代以降に空手が青年及びスポーツ省の推奨スポーツに指定され、青少年センターで空手教室が開かれたことが大衆化につながったと言える。

1970～80年代に空手道を始めたエジプト人は、空手道が日本発祥のスポーツであることを十分に認識し、日本文化や歴史に関心を示した。一方、90年代に空手道を始めた若者の場合、空手道の起源としての日本については無関心であった。1980年代より前に空手を始めた世代が白い道着に黒帯を締めて稽古にのぞむのに対し、若い空手家の多くはTシャツやジャージなどで稽古を行い、道着を着用している者は珍しい。30代の空手指導者にインタビューした際に、「空手は日本から来たかも知れないが、現在では『エジプト化』した。」と言っていた。エジプトは中東・アフリカを代表する空手大国であるという自負からの発言であろう。稽古に熱心に取り組む若者でさえ、「下段払い」や「前蹴り」などの技の名前が日本語だとさえ知らないこともある。手本となる空手家は日本人ではなく、空手の強豪国であるイタリアやドイツにいと認識しているため、元世界チャンピオンのLuca Valdesi (イタリア人) にちなみ自らを Salah Valdesi と呼ぶ者もいる。半世紀が経ち、エジプト化した空手道は、文化ナショナリズムを支える大切な資本の一つとなったようだ。エジプトにおける空手道の普及は、日本文化が真にグローバル化した様子を体現している。

2) 多様な空手教室と社会階層

現在、エジプトにおける空手の競技者人口はサッカーに次いで二番目に多い。大多数の競技者は4～12歳の子供で、中学校に入学する頃まで稽古を続ける者は少ない。エジプトはスクワ

ッシュやアーチェリーでも世界的に活躍する選手がいるが、上流階級向けの会員制スポーツクラブに所属していない者は練習に参加することができない。一方、空手道は、柔道やテコンドーなどの格闘技と比べても用具や畳などの設備投資が必要ないことから幅広い社会階層の出身者に親しまれている。会員制スポーツクラブだけでなく、公営の青少年センター、学校の体育館、図書館、モスクの中庭など様々な場所で空手教室が開かれている。

青少年センターはナセル大統領 (1956～70年) の社会主義政策の一環で、会員制スポーツクラブに所属できない階層にスポーツをたしなむ機会を提供するために設立された。青少年センターは中流および下流階級の住宅街にあり、年会費を支払うことなく、少額の月謝で空手の稽古に参加することができる。青少年センターの空手教室に参加していた子供が、有名な会員制スポーツクラブの指導員にスカウトされ、経済的な支援を受けながら稽古や競技会に参加することもある。一般的にエジプトは階層社会であることから社会的流動性が低い。よって、スポーツが階層の上昇する制度として利用されていることに驚いた。

エジプトでは運動が好きか否かに関わらず、多くの人々がスポーツクラブに所属している。調査で訪問した公営の会員制スポーツクラブでは、会員は中流層が多いのに対し、競技者は下中流から上流まで様々な階層の出身者がいた。ムバーラク政権 (1981～2011年) が新自由主義的な公共政策を進め、貧富の差が拡大した結果、どのスポーツクラブの会員かということと社会階層意識の関連性がより一層強まったように思える。空手道の大会で優秀な成績を残した者は、無償でスポーツクラブの会員となり、稽古に取り組むことができる。クラブの会費を払うことが難しい階層の出身者にとっては非常に魅力的な制度であるといえる。

3) 空手道における「楽しさ」の位置づけと中流層的倫理観の関係性

社会理論においてスポーツ実践は「余暇」として捉えられるが、エジプトの中流層出身の空手家はスポーツと「楽しみ」を結びつけることを嫌う傾向にある。エアロビクスやウエイトリフティングなどは体を鍛えるために有意義な行為であるが、試合での勝利やメダルの獲得を目指したスポーツとは異なるという点を強調する。

臨地調査を行った際に、通常の稽古

と比べ、試合に対する真剣さや勝利への執着心の強さに驚かされた。空手家やコーチの家庭を訪問したり、フェイスブックに掲載された写真を閲覧したりする過程で、試合で獲得したメダルやトロフィーはもちろんのこと、講習会の参加証や写真までも中流層的な階級意識を保つために重要な意義をもつことが明らかになった。試合への真剣な取り組みを見ていると、スポーツが実利的な利益をもたらすことは考えにくいとは言え、中流層の「余暇」として分析することに違和感を覚えた。

< 引用文献 >

Armbrust, Walter, 1996, *Mass Culture and Modernism in Egypt*, Cambridge: Cambridge University Press.

Chakrabarty. Dipesh, 2000, *Provincializing Europe: Postcolonial Thought and Historical Difference*, New Edition, Princeton: Princeton University Press.

Mitchell, Timothy, 1988, *Colonising Egypt*, Berkley, University of California Press.

Salvatore, Armando, 1997, *Islam and the Political Discourse of Modernity*, Reading: Ithaca Press.

Winegar, Jessica, 2006, *Creative Reckonings: the Politics of Art and Culture in Contemporary Egypt*, Stanford: Stanford University Press.

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 2 件)

1. 相島葉月、2016、「エジプトにおける空手道の新地平 大人の初心者向け空手教室 (アラビア語)」、『あるやばん』、302、12(査読無)。

2. Hatsuki Aishima, 2016, "Between 'Public' Islam and 'Private' Sufism: Producing a National Icon though Mass Mediated Hagiography", *Die Welt des Islams*, 56, 34-54 (査読 有) , 10.1163/15700607-00561p04.

[学会発表] (計 8 件)

1. Hatsuki Aishima, "Between Power and Beauty: Preliminary Reflections on Egyptian Karate Communities", Middle Eastern Studies Research Seminar, University of Manchester, Manchester, UK, 2015年4月25日.

2. 相島葉月、教養へのアコガレ 現代エジプトの都市中間層によるイスラム・教育・メディアの消費をめぐって、現代消費文化に関する人類学的研究 モノ価値の変化のグローバル化の多元性に着目して、国立民族学博物館、大阪府吹田市、2014年7月13日.

3. Hatsuki Aishima, "Is Islam a Cultural Capital? Religion, Social Class and Education in Contemporary Egypt", the Association for the Study of Ethnicity and Nationalism (ASEN) Seminar Series, London School of Economics, London, UK, 2014年3月5日.

[図書] (計 5 件)

1. Hatsuki Aishima, 2016, *Public Culture and Islam in Modern Egypt*, IB Tauris, 204.

2. Hatsuki Aishima, 2016 (forthcoming), "Are We All Amr Khaled? Islam and the Facebook Generation of Egypt." (Adeline Masquelier and Benjamin Soares eds.) *Muslim Youth, the 9/11 Generation?*, School of Advanced Studies, 105-122.

3. Hatsuki Aishima, 2013, "Nicht nur Not Just for Fun: Sport und Gesellschaftsschicht im neoliberalen Ägypten." (Thorsten G. Schneiders ed. and trans.) *Die Araber im 21. Jahrhundert: Politik, Gesellschaft, Kultur*. Springer VS, 353-364.

[その他]

頭脳循環

1. Hatsuki Aishima, "Which Muslim Perspective?" Are We Charlie?, University of Manchester, Manchester, UK, 2015年1月30日.

2. Hatsuki Aishima, Discussant,

Study of Islam and Contemporary Muslim Societies, Oxford Centre for Islamic Studies, Oxford, UK, 2014年10月18 - 19日.

3. Hatsuki Aishima, Discussant, Shared Destination, Different Routes?: British and German Approaches to Political Transition in the Middle East and North Africa, King's College London and the UK Foreign and Commonwealth Office. London, UK, 2014年5月6日.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

相島 葉月 (AISHIMA, Hatsuki)
国立民族学博物館・民族社会研究部・外来研究員
研究者番号：40622171

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：